

オーストラリアのクイーンズランド州マウンテンクreek高校に派遣させていただきました、松崎遥です。私は教育に興味があり英語も好きなので、海外の学校の仕組みを知りたいと思い、今回のプログラムに参加しました。実際に2週間学校に通うと多くの違いを感じ、将来の為になる刺激を受けました。

まず、日本のホームルームのようなものはなく、担任の先生がいないことに驚きました。その代わりに他学年混合の縦割りグループがあり、行事ではそのグループで行動していました。授業は教科や生徒のレベルごとに、教室やメンバーが違う環境でした。オーストラリアは日本の高校と違い、義務教育が終わった後でも公立であれば、学区ごとに通う学校が決まっています自分で学校選びができないため、このようなクラス分けは良いと感じました。同じ人に縛られないこのようなクラス分けは、いじめの少なさにも関係しているのではないかと感じました。実際にいじめはほとんどないそうです。生徒のなかにはIBと呼ばれる国際的な高校卒業資格を取得できるクラスに所属している人もいて、高いレベルの授業が展開されていました。

2つ目は授業のデジタル化です。ほとんどの先生が電子黒板を利用していました。黒板に書く時間を省くことができ、授業の効率が上がると思います。また、生徒は多くの授業で自分のノートパソコンを使います。このパソコンには教科書がデジタル化されて入っているため、移動教室の多い彼らにとっては、とても便利だと思いました。インターネットを使ってすぐに調べることができるため、より多くの情報や知識を得ることができているように感じました。また、課題の提出方法もパソコンで資料を作成しメールで送るなど、私が通う学校との差を大きく感じました。IT化が進む社会で、高校生の時からパソコンの使い方について学ぶことは大切なことだと思います。

3つ目は、留学生の受け入れ体制です。オーストラリアは英語圏で治安も比較的良いことから多くの学生が留学していて、私の通ったマウンテンクreek高校も例外ではありませんでした。アジアやヨーロッパ、南米の生徒が多く、長期・短期留学含めて50名ほどが在籍していました。留学生のためのインターナショナルルームという部屋があり、留学生同士が交流することができます。日本人の長期留学生もいたため、そこで話を伺うことができました。留学担当の先生もそこに常駐していて、学校生活の仕方を教えてくれたり、授業で使うノートパソコンの貸出をしてくれたりと留学生を手厚くサポートしてくれます。このような場所があることで留学生も安心して学校に通うことができるのではないかと感じました。

このほかでも日本との違いをたくさん感じました。授業でわからないところがあると挙手をして先生に質問をする生徒が多くいました。先生もそれに対して分かるまで丁寧に教えてくれる印象を受けました。また授業も一方的に教え

るのではなく、グループごとに解き方を考えたり、劇をしたり、動画を作ったりと、日本より自由な発想で自主性を重んじた教育だと感じました。学校は朝7時半から始まり13時前には終わるため、放課後自由に使える時間が多くありました。部活動がさほど盛んではなかったため、生徒たちはassignmentと呼ばれる長期課題を学校の図書館や家でやったり、アルバイトをしたり、友達と遊んだり、思い思いの時間を過ごしていました。私は部活動で家に帰る時間が夜遅くなることが多いので、ゆっくりとした時間を過ごしているオーストラリアの生徒が羨ましく感じました。

休日はホストファミリーと共に過ごしました。ホストファミリーは13歳の女の子とお母さんでした。一緒に買い物をしたり海へ行ったりして、2人が普段どのような生活をしているのかを知ることができました。日本食が好きな家族で、一緒に日本食レストランへ行ったり、お好み焼きを作ってあげました。動物園でコアラを抱いたり、カンガルーに触ったりして、オーストラリアを満喫することができました。「Australia」という映画を見る機会もありました。すべてを理解することは難しかったですが、先住民であるアボリジニに対する差別や文化を知り、日本が太平洋戦争のときにオーストラリアに攻め込んだことも知りました。戦争はもう何年も前のことですが、日本が彼らの祖先を傷つけたことを現地で知り、申し訳ない気持ちになったのと同時に、それを知っていながらも温かく親切に接してくれたことを嬉しく思いました。あまり日本では教えられていないオーストラリア戦も、まだよく知らないオーストラリアの歴史についてももっと知りたいと思いました。

今回の経験で、自分の言いたいことがすぐに出てこなかったり、聞き間違えて全く違う返答をしてしまったりと、いかに自分の英語力が未熟であるかを感じました。日本の教育制度や震災、原発などについて話したのですが、思うように説明できななかったり、難しい単語が理解できななかったりと、悔しい思いをしました。また、日本人とは違った角度からの意見を聞くことができ、もっと多くの外国人と話したいと以前より強く感じました。世界的に使っている人の多い英語をこれからも勉強して、コミュニケーションのツールとして「使える」ように身につけたいと思います。今回は2週間という短い期間で浅い部分しか知れないが多かったと思います。しかし、現地の学校の先生や生徒、ホストファミリー、埼玉県庁の方々など多くの人のサポートもあって有意義な密度の濃い時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。多く

の良い出会いがあった2週間でした。また機会があれば、ぜひ他のプログラムにも参加したいです。



友人と日本食レストランにて